古典技法脱活乾漆による彫刻作品と海外展発表報告

竹永亜矢

Report on Traditional Arts of Dakkatsu-Kanshitsu (hollow dry lacquer) Sculpting Technique and its Display in Overseas Exhibitions

Aya Takenaga

Abstract

Based upon research on the dakkatsu-kanshitsu (hollow dry lacquer) technique of sculpture that had died out since the Nara Period, the creation of works of sculpture with a finishing technique of gold lacquer decoration has been in progress with an eye toward entry in international exhibitions.

Past works have obtained high praise at international exhibitions for outstanding originality that expands the range of expression of "lacquer," the representative Japanese craftsmanship material that is known overseas as japanning. Between 2006 and 2013, these works were displayed in overseas exhibitions in Spain, Canada, Taiwan, and New York. As a member of a Japanese arts organization, Jiyu Bijutsu, works have been submitted to its public annual exhibition every year. The author has received such awards as the Outstanding Work Award in 2009 and the Japan Sculpture Art Gallery's Encouragement Award in 2010 from "Jiyu Bijutsu Arts Exhibition"; the Chairman's Award in 2006, and the Forestry Agency Director General's Award in 2010 from "the Beauty of URUSHI" held by Japan URUSHI Arts and Crafts Association.

Keywords: traditional sculpture, dakkatsu-kanshitsu (hollow dry lacquer) sculpting technique, lacquer-ware, gold lacquer, lacquer, craftsmanship, international exhibition, Japan URUSHI Arts and Crafts Association, Jiyu Bijutsu Arts Exhibition

脱活乾漆彫刻について

脱活乾漆彫刻とは、中国から奈良(天平)時代 7 世紀頃には日本に伝わり、天平時代（710～794）盛んに仏像制作に用いられた技法である。古くは夾紵と称され、明治以降になって乾漆とよばれるようになったとされる。粘土で像の原型を作り、これに生漆を塗り重ねて乾燥させた後、麻布の一部を切開して内部の粘土を取りのぞき、狂い止めの芯木を入れ、表面を漆木屑や錆漆で造形し、漆を塗って仕上げたものを言う。当時はこれに漆箔仕上げ(漆下地塗に金箔を置き、金色に仕上げたもの)或いは彩色仕上げ(白土で下塗りし、絵具で彩色)が施された。奈良時代以降、この技法で制作された作品はほとんど残っておらず、現存する作品は奈良時代に作られたものが多い。脱活乾漆彫刻の代表的な作品として、奈良唐招提寺の国宝「鑑真和上像」、興福寺「阿修羅像」、東大寺法華堂(三月堂)「不空羂索観音像」などがある。

脱活乾漆技法への取り組み

古典仏像彫刻を研究する中で、その造形と技法の謎に魅かれ、1990 年より乾漆技法の研究と脱活乾漆による彫刻制作に取り組んでいる。

脱活乾漆作品は、丈夫で軽量という特徴を持つ。女性でも容易に等身大の作品を持ち上げて移動させる事も出来、完成作品は展覧会、個展の展示や移動などにも十分耐えうる。

奈良時代から 1200 年の時を経て現存する脱活乾漆作品は、この技法特有の軽量さから、戦や火災の時にもたやすく持ち出せ、災害を避けることが出来たと言われる。

脱活乾漆彫刻は、奈良時代(天平 710~794)に隆盛を極めたが、以降、彫刻制作の技法としては用いられなくなった。その理由として、制作に時間がかかり、高価な漆を多用する点が挙げられる。奈良時代後期になるとより早く制作できる木芯乾漆※1 による乾漆像が増え、その後、仏像彫刻は木彫に取って代わり、乾漆技法は廃れてしまった。これに加え、東大寺の巨大仏像群の建立が進められたことでその素材となる漆資源を使い果たしてしまったのもこの技法が廃れた原因のひとつと考えられている。

脱活乾漆の主な素材となる「漆」は樹液を採取し、それを精製して作られる天然の樹脂で採取量も少なく、希少で高価な素材である。奈良時代まで、漆は仏像を作るうえで金に次ぐほどの高貴な材料とされた。それ以降も漆液は米と同じ様に年貢として徴収され、貴重な素材として扱われてきた。現在も高級な天然素材である。（生漆※2［上摺］：国産 100g¥10,800・中国産 100g¥2,268　株式会社箕輪漆工 2014 年 10 月現在）

脱活乾漆による彫刻制作では、多量の漆を要する。この高価な素材を無駄なく使い、その魅力を引き出す事が出来た時、制作に時間のかかる脱活乾漆技法に取り組む意義を強く感じる。天然素材である漆は、制作する側の都合に合わせてはくれない。先人たちは数千年の時をかけ、この自然素材と向き合い、その不自由さの中に表現の可能性と目的に応じた活用方法を見出して来たのであろう。

先人たちが残した古典作品を考察し、工芸における漆工技術、塗りや装飾技法を作品に

応用する事で、立体としての耐久性と芸術性を高め、海外で“JAPAN”と呼ばれ、日本を代表する工芸品の素材である「漆」の表現領域の可能性を広げたオリジナル性の高い作品の制作を心がけている。

※1 木芯乾漆…荒彫りの木彫を心木としたものに麻布を貼り、漆木屑を盛り上げて造形し、錆漆、漆塗り、箔や彩色で仕上げたもの

※2 生漆(きうるし)…樹木から採取した原料漆をそのまま濾過して夾雑物を除去したもので、等級により用途(摺漆用・下地用など)が使い分けられる。

古典技法脱活乾漆による彫刻作品と海外展・国内展発表報告

作品シリーズ名	作品番号	題　名	発表年・発表地
「木花咲耶姫」シリーズ	**作品 1**	木花咲耶姫･ｺﾉﾊﾅｻｸﾔﾋﾒ「春光」	2013・ニューヨーク
	作品 2	木花咲耶姫・ｺﾉﾊﾅｻｸﾔﾋﾒ「春の訪れ」	2010東京・2011台湾
	作品 3	木花咲耶姫・ｺﾉﾊﾅｻｸﾔﾋﾒ	2008～2010・カナダ
「立　つ」シリーズ	**作品 4**	「2010・立つ」	2010・東京
	作品 5	「2009・立つ」	2009・東京
「人形　陸」シリーズ	**作品 6**	「月　光」	“08 スペイン・“06 東京
「仔　犬」シリーズ	**作品 7**	「子犬が来た日」	2011・台湾
	作品 8	「仔犬」	2005・スペイン

作品 1

作品題名：木花咲耶姫・ｺﾉﾊﾅｻｸﾔﾋﾒ「春光」

制作技法：脱活乾漆、蒔絵

材　　質：漆・布・金箔・金粉

作品サイズ：高 55×幅 45×奥 30cm

制作期間：2010 年 1 月～2012 年 9 月

制作目的：日本上代神話の木花咲耶姫を題材に、日本の古典彫刻技法脱活乾漆と漆芸の伝統技法金蒔絵を用い、造形と装飾に自然の大観を表現する事を目的とし、国際的発表を視野に入れた作品として制作

作品発表：2013 年 12 月　ニューヨーク・ローワイーストサイド選抜展出品

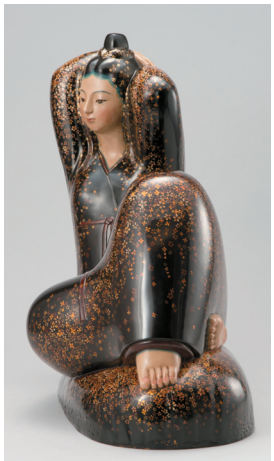
第 1 部　Japanese Arts Selection in the LSE,NYC　「彩～Color Selection～」

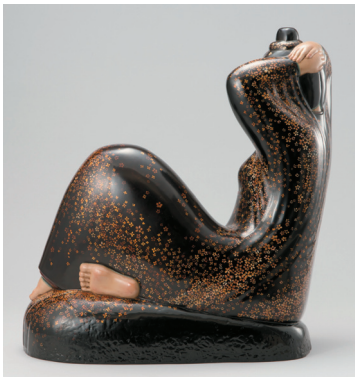
第 2 部　Japanese Arts Selection in the LSE,NYC「和～Culture Selection～」

【ニューヨーク・NOoSPHERE Arts Gallery】

掲載 1：2013 年 Japanese Arts Selection in the LSE,NYC 作品図録『～彩 Color Selection~』pp.6,／『和 Culture Selection』pp.2,〈ART CROSS〉

掲載 2：2013 年　米国『週刊 NY 生活』pp.16,〈NY 生活プレス社〉





作品１　木花咲耶姫・ｺﾉﾊﾅｻｸﾔﾋﾒ「春光」

作品 2

作品題名：木花咲耶姫・ｺﾉﾊﾅｻｸﾔﾋﾒ「春の訪れ」

制作技法：脱活乾漆・蒔絵

材　　質：漆・布・金箔・金粉

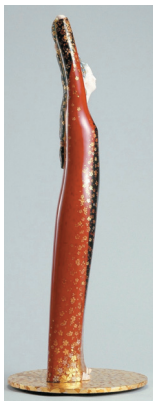
サ イ ズ：高 45×幅 65×奥 23cm

制作期間：2008 年 3 月～2009 年 9 月

制作目的：奈良時代より制作されている脱活乾漆技法と、室町時代に隆盛を極めた蒔絵技法を用いることをテーマとして、日本上代神話のコノハナサクヤヒメを題材に、国際的視野による発表を目的とした作品

作品発表：2010 年 11 月第 18 回日本文化を担う「漆の美展」林野庁長官賞受賞【明治記念館】
2011 年 9 月「台湾・竹縣精彩 100～第 3 回中日国際漆藝交流展」
【台湾・新竹市　新竹縣立美術館】〈新竹縣政府文化局〉

掲載 1：2010 年『花美術館 vol,14』pp.110,〈株式会社　花美術館〉



作品 3

作品題名：木花咲耶姫・ｺﾉﾊﾅｻｸﾔﾋﾒ

制作技法：脱活乾漆・蒔絵・漆箔

材　　質：漆・布・金箔・金粉・胡粉・顔料

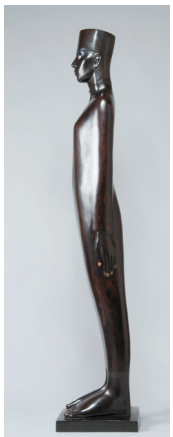
サ イ ズ：高 75×幅 28×奥 28cm

制作期間：2006 年 3 月～2007 年 9 月

制作目的：脱活乾漆彫刻の芯構造、胡粉彩色と蒔絵技法による装飾表現を研究テーマとし、国際的展覧会発表を視野に入れた作品

作品発表：2008 年 5 月～2010 年 10 月　カナダ･モントリオール「漆展」漆･神秘なる樹液【モントリオール市立植物園・日本庭園日本館】〈日本漆工協会〉

掲載 1：2008 年『現代日本のクラフト vol.2』pp.162－163,〈アートボックスインターナショナル〉



作品 4

作品題名：「2010・立つ」

制作技法：脱活乾漆・漆箔

材　　質：漆・布・金箔

サ イ ズ：高 175×幅 50×奥 40cm

制作期間：2009 年 2 月～2010 年 8 月

制作目的：エジプト彫刻の造形研究と、蒔絵技法による装飾と人物表現を題材に、自由美術展で発表することを目的とした作品

作品発表：2010 年 10 月「第 74 回　自由美術展」　現代彫刻美術館奨励賞受賞・会員推挙〈自由美術協会〉【東京都美術館】

掲載 1：2010 年『第 74 回　自由美術展立体作品集』pp.32,〈自由美術協会立体部〉

掲載 2：2011 年『花美術館　vol,18』pp.91,〈株式会社　花美術館〉

作品 5

作品題名：「2009・立つ」

制作技法：脱活乾漆

材　　質：漆・布・黒御影石(台座)

サ イ ズ：高 97×幅 20×奥 20cm

制作期間：2008 年 3 月～2009 年 8 月

制作目的：エジプト彫刻の造形研究と、脱活乾漆技法による人物表現を題材に、自由美術展で発表することを目的とした作品

作品発表：2009 年 10 月　「第 73 回　自由美術展」佳作賞受賞〈東京都美術館〉

掲載 1：2009 年『第 73 回　自由美術展立体作品集』pp.39,〈自由美術協会立体部〉

作品 6

作品題名：　「月　光」

制作技法：脱活乾漆・漆箔

材　　質：漆・布・金箔・胡粉・顔料

サ イ ズ：高 37×幅 8×奥 6cm

制作期間：2005 年 1 月～2006 年 10 月

制作目的：桃山時代の装束デザインをイメージした漆箔による装飾と、胡粉彩色の組み合わせによる人物表現を試み、国際的視野による発表を目的とした作品

作 品 発 表 1：2008 年 4 月　第 2 回スペイン「漆の美展」【バルセロナ・マドリード・トルトッサ】

作品発表 2：2006 年 11 月　「第 14 回　漆の美展」日本漆工協会会長賞受賞
【明治神宮文化館宝物展示室】〈日本漆工協会〉

掲載 1：2008 年『現代日本のクラフト vol.2』 pp.162－163〈アートボックスインターナショナル〉

作品 7

作品題名：「 子犬が来た日 」

制作技法：脱活乾漆、石地塗(犬)

材　　質：漆・布・乾漆粉・金粉

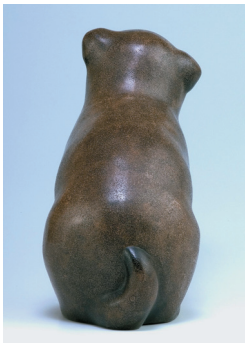
サ イ ズ：高 40×幅 25×奥 26cm

制作期間：2006 年 3 月～2007 年 10 月

制作目的：彫刻の空間性の研究、小さい作品でありながら、空間の広がりと時間の流れを感じられる作品を目的として制作

作品発表：2011 年 9 月「台湾・竹縣精彩 100～第 3 回　中日国際漆藝交流展」
【台湾・新竹市　新竹縣立美術館】〈新竹縣政府文化局〉

掲載 1：2011 年『中日國際漆藝交流展作品集』pp.132,pp.175,〈新竹縣政府文化局〉



作品 8

作品題名：「仔　犬」

制作技法：脱活乾漆・石地塗

材　　質：漆・布・乾漆粉

サ イ ズ：高 32×幅 17×奥 31cm

制作期間：2004 年 1 月～2004 年 8 月

制作目的：日本の動物彫刻(鎌倉時代)の研究をテーマとして、脱活乾漆による造形と、漆芸の石地塗(いじぬり)仕上げによる仔犬の表現に取り組み、国際的視野による発表を目的とした作品

作品発表：2005 年 11 月　スペイン「漆の美展」【サマランカ・トレド・バルセロナ】

作品収蔵：2006 年 12 月　日本漆工協会より皇室桂宮家献上作品に推薦される

掲載 1：2006 年『現代日本の彫刻 vol.2』 pp.172－173,〈アートボックスインターナショナル〉

参考文献

上田久利(2005) 「乾漆彫刻制作法の研究」(岡山大学教育実践総合センター紀要・第 5 巻),[online] ousar.lib.okayama-u.ac.jp/file/11396/005_099_108.pdf(参照 2014-9-19).

酒依清太郎(1969)「漆箔像の下地塗技法について」, 西村公朝他『美術院紀要』(創刊号)pp65-73, 財団法人美術院.

杉山秀雄(1969)「仏像彫刻の彩色の下地について」, 西村公朝他『美術院紀要』(創刊号)pp97-102, 財団法人美術院.

竹永亜矢・最上壽之他(2006)『現代日本の彫刻 vol.2』アートボックスインターナショナル.

竹永亜矢・芹川英子他(2008) 『現代日本のクラフト vol.2』アートボックスインターナショナル.

竹永亜矢・井上信道他(2009),『第 73 回 自由美術展立体作品集』自由美術協会立体部事務所.

竹永亜矢・井上玲子他(2010) 『第 74 回 自由美術展立体作品集』自由美術協会立体部事務所.

竹永亜矢・陳花慶・王賢民他(2011)『中日國際漆藝交流展作品集』新竹縣政府文化局.

竹永亜矢・奥田小由女他(2010) 『花美術館 vol,14』花美術館.

竹永亜矢・最上壽之他(2011)『花美術館 vol,18』花美術館.

西村公朝(1973)「脱活乾漆彫刻の技法とその表現効果について」, 酒依清太郎他『美術院紀要』(第 3 号)pp55-79, 財団法人美術院.

美術出版社編(1950)「乾漆・石彫」,山本豊一『彫刻の技法』pp.94-103 美術出版社.

松田権六(2001)『うるしの話』岩波文庫.

丸山高志編(1987)『日本漆工 特集号・日本の漆工其の一・材料と用具』社団法人日本漆工協会.

光芸出版編(2003) 『漆芸事典』光芸出版.

光森正士・岡田健(1996)『仏像彫刻の鑑賞基礎知識』至文堂.

箕輪漆工(2014)「箕輪漆工オンラインショップ」,[online] www.urushiya.jp/ (参照 2014-10-15).

藪内佐斗司(2007)「天平の美少年阿修羅・脱活乾漆という技法」,『知るを楽しむこの人この世界－ほとけさまが教えてくれた仏像の技と心－』2007 年 4 - 5 月第 3 巻第 1 号, pp.59-63, 日本放送出版.